

## 男女・立場によって異なる災害時の困難

避難生活や復興の困難さは、性別や年齢、個人が家族や地域で置かれている立場などによって、違います。

地域の防災体制では、さまざまな人々が必要とする支援をよく把握したうえで、対処できるよう備える必要があります。見えてくる課題について、地域全体で検討しましょう。

### 過去の災害事例：見えてくる課題

#### 1. 生活環境（プライバシー・衛生・安全）

- ① 仕切りや更衣室がない場合、プライバシーが確保できない。
- ② 入浴できないことがつらい。新生児等、衛生環境を維持しなければならない状況の方にとっては、大問題。
- ③ 指定避難所に居づらい避難者（障がいをお持ちの方、乳幼児、認知症患者を抱える家族など）

#### 2. 安全・安心（治安・暴力など）

- ① 街灯不足、停電、節電のため暗い。避難所の仮設トイレは屋外に設けられ、男女別・多目的の区分けがされることは少ない。
- ② 女性・子ども等弱者への暴力が増加する。（世界的傾向）

#### 3. 物資の不足と管理

- ① 特に、高齢者用品（オムツなど）、育児用品（ミルク・哺乳瓶・オムツなど）女性用・妊産褥婦用の衣服、下着、生理用品が不足。
- ② 避難所のリーダーや物資担当者は、男性が多く、女性への必要物資をもらったり、要望しづらい。（外国の方の場合は、通訳者が不足）
- ③ 物資配布手段が限られ、在宅避難者へ物資・食料が行き渡らない。リーダーによっては、渡さない。

#### 4. 炊出し・介護・子育て（固定的性別役割）

- ① ライフラインの低下、保育・福祉・医療サービスの機能低下（停止）による家族のケア負担増加。
- ② 炊出し当番は、女性のみになりがち。対して、避難所のリーダーや責任者は、男性になりがち。一部の避難者に、過度な負担が集中。
- ③ 仕事と家庭との板挟みにあう。
- ④ 父子家庭への支援不足。
- ⑤ 「震災同居（＝自ら被災しながら、他の被災者を自宅に受け入れる）」「震災別居（＝被災状況・復興状況により、家族がばらばらに避難・別居しなければならない状況）」

#### 5. 心身の健康

- ① 慢性疾患の悪化、感染症（インフルエンザなど）、災害ストレスによる不眠・便秘等体調不良

- ② 被災生活（不衛生や我慢など）が引き金となる症状：膀胱炎、外陰炎
- ③ 役職・立場環境がもたらすストレス、復旧・復興が進まない事への不安（現地被災者と現地に応援派遣される方）

#### 6. 家族・地域との関係

- ① 仮設住宅や復興住宅への入居による、新しいコミュニティの形成
- ② 孤独死・アルコール依存
- ③ 親密な人へのDV・虐待の増加

#### 7. 働くこと・収入

- ① 会社に経営規模縮小や倒産等による、派遣・非正規雇用者の解雇
- ② 家族内のケア（育児・介護や不安）による負担が増加し、職場に出にくい。託児問題。
- ③ 復興の緊急雇用の内容が、男性向きで女性を活用しにくい。

#### 8. 意思決定への参画

- ① 避難所運営や復興の議論の場に、参加できない。参加しない。（会議のメンバーが、宛職であることが多いため、若年男子、女性、外国人、障がい者、持病もちの方などは、参画していないことが多い）
- ② ニーズ把握ができない（上記、参画に不慣れな方々は、要望を発信しないことが多い。）

## 災害対応（できること）

家庭で

地域で

職場で

**身の安全の確保・環境整備**

**命をつなぐ備蓄**

**協力体制の確立**

**共通認識・スキルアップ**

**※できることを行う**